

〔中山傳信錄六〕茶甌 茶托 茶帚

茶甌色黃、地白者描青綠花草、云出土噶喇、其質少麤無花、但作冰紋者出大島、

甌上造一小木蓋朱黑漆之下作空心托子製作頗工、

〔長闇堂記〕出雲殿○金手階町にて天目の朱の臺を買給ひての給へるは、臺の黒ぬりは唐物見分がたき物なれば、朱臺夫にてよきぞとなり、尤なることなり、

〔槐記〕享保十二年三月廿九日、參候兼テ御ウワサ○家熙近衛アリシ、眞ノ臺并ニ天目ヲ拜見スベキ由ニテ拜見ス、是ハ文昭院殿家宣德川ヨリ、禪閣様基近衛ノ御歸洛ノ節、准后様家熙近衛ヘ進ゼラレシ物也トゾ、マガフベキナキハ勿論ノコト、日本ニテ數アルモノナレバ、能々見覺ユベシ、天目ハ乾山ニテ黒キニ、コウダイハ、ハゲテ細キモノニスキナシ、如何様ニモ、臺ニノセザレバ危キヤウニ見ル由申シ上グ、臺ハ菊ノ花形ニテ、内ハ朱ニ金ノフクリシアリ、外ハ青漆ノ由ナレドモ、内ノ朱モクロミガチニ、外ノ青漆モ、子ズミ色ノヤウニテ、張貫ノ菊形也、イロガ、ワカサ盆ノ色ナリト申上ル由ナリ、天目ノ袋ハ錦也、臺ノ袋ハドンス也、裏ハ共ニカイキ也、ヒボハ天目ノ方紫、臺ノ方茶也、天目ハ内箱ハクロガキ、外ハ桐、

〔倭訓采前編十五〕ちや○中 茶壺、今眞壺と稱す、花青香、又蓮花王の茶壺あり、

〔和漢茶誌二〕茶甌○中 俗以漏斗入茗芽之器也、今

按茶集藏茗之器也、其形有大小異同、一曰茗罍者呂宋國之製也、崎陽人云、昔或以藤或以荔爲網提之、

本國自珠光以降、以紅紫網提之、其製六出員眼也、寓奇曰、壺受紙之處、在崎嶇凹凸之場、勢必剪碎紙條作蓑衣樣式能貼服、以使內外不通風也、故錫瓶之蓋、止宜厚不宜雙矣、○中

本國由古及今所尚葉茶壺、凡二十二品、其中三日月與松嶋、亡於本能寺之亂、又八重櫻一品失於江